

タガメ *Kirkaldyia deyrolli* (Vuillefroy)

【選定理由】

かつては県内各地で生息していたが、近年その生息地が激減している。また、水質の悪化やマニアによる乱獲などで個体数が減っている。

【形態】

水生半翅類の中でも最大級で、体長は48～65mm。体色は灰褐色ないし褐色を呈している。前脚は強大な捕獲脚となっており、尾端に伸縮自在の呼吸管がある。口吻は短大で第2節は短い。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊川市、新城市、豊田市、西尾市、瀬戸市、尾張旭市、春日井市、犬山市などで記録されている。

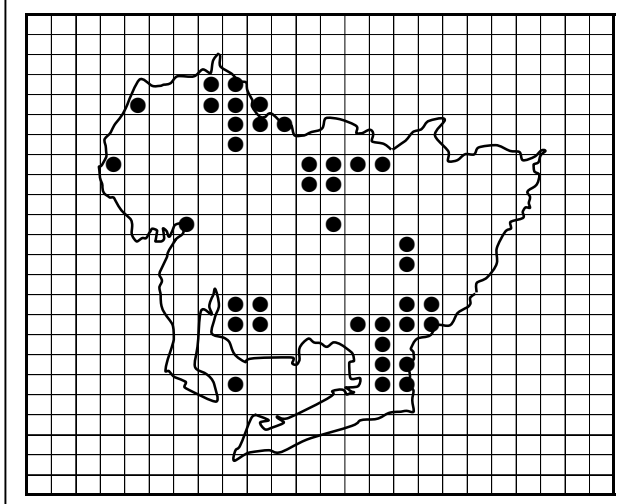
【国内の分布】

北海道、本州、隠岐、四国、九州、対馬、琉球（沖縄島、宮古島、石垣島、西表島、与那国島）。

【世界の分布】

ロシア極東（沿海州、サハリン）、中国、北朝鮮、韓国、台湾。

県内分布図



【生息地の環境／生態的特性】

丘陵地から低山地にかけて、抽水植物が繁茂する溜め池などに生息する。また、水田地帯の水路や休耕田の泥深い湿地環境でも確認されている。♀は水面上の植物の茎などに卵塊を産み付け、♂がこれを守る習性が知られている。灯火によく飛来する。

【現在の生息状況／減少の要因】

丘陵地から低山地の抽水植物が繁茂する溜め池などに生息するが、西三河地方では休耕田のような泥深い環境にも多数見られる場合がある（大塚, 2008）。

農業使用等による生息地の水質悪化、水田環境の減少や溜め池の消失などが直接的な減少要因としてあげられる。インターネット等で販売されるようになってからは、マニアによる採集圧も無視できない。最近では、カエル類やドジョウといったタガメの餌となる生物の減少の他に、ウシガエルやアメリカザリガニといった外来種の影響による減少も示唆されている（渡部・大庭, 2018）。

【保全上の留意点】

現在の生息地については、大規模な土地の開発を行う際には、十分な配慮が必要である。また、本種はインターネット等で取引されることから、業者による採集圧の影響が心配される。反面、飼育が容易であり、増えすぎた個体の放虫により遺伝子汚染や生息地の攪乱が懸念される。

【特記事項】

本種は、種の保存法で特定第二種国内希少野生動物種に指定されている。

【引用文献】

大塚 篤, 2008. タガメの分布調査と飼育(Ⅱ). 佳香蝶, 60 (234): 127-131.

渡部晃平・大庭伸也, 2018. VI. 絶滅要因と保全事例 1 タガメが減少した要因-なぜ全国的に激減したのか?- . 水生半翅類の生物学: 58-71. 北隆館, 東京.

【関連文献】

浅岡孝知・家城 司, 1990. 愛知県の異翅目. 愛知県の昆虫, (上): 123-162. 愛知県.

林 正美・宮本正一, 2018. 半翅目 Hemiptera. 日本産水生昆虫 科・属・種への検索 (第二版): 329-427. 東海大学出版会, 神奈川.

大塚 篤, 2003. タガメの分布調査と飼育(Ⅰ). 佳香蝶, 55 (215): 61-64.

(澤田宗一郎)